

令和5年度 福島県立福島高等学校 校長式辞

春麗らかな今日の佳き日に、福島県議会議員 伊藤 達也 様 父母と教師の会会長 齋藤 重徳 様 同窓会会長 芳賀 裕 様 の御臨席を賜り、令和五年度の入学式を挙げていきますことは、誠に喜ばしい限りであります。

ただいま入学を許可した二百八十名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、心より歓迎いたします。

また、お子様の健やかな成長を願い、育てられました保護者の皆様に、衷心より敬意を表しますとともに、お祝いを申し上げます。

さて、本校は、明治三十一年の創立以来、百二十五年目を迎え、県内は勿論のこと国内外で活躍する数多くの有為な人材を輩出し、本県高校教育を牽引する、大きな使命を担ってまいりました。私自身も本校で三年間を過ごしましたが、当時の福高を思い返すと、自由で、奔放で、個性的な人がたくさんいて、あまり小さくまとまらず、骨太でそれぞれの目標実現への気概に満ちていたように思います。そこでの3年間で今の自分の人格形成に良い意味で大きな影響を与えたことはまちがいありません。

この間、男女共学化し、SSH 校となり、時代の移り変わりとともに変化してきたわけですが、根底には福高の伝統が息づいていると思います。それを私なりに言葉にするなら、「自由」であり、あくなき「探究の精神」であり、「多様性」であり、「創造性」であったと思います。高校を卒業し、社会に出て、想像すらできなかったことが次々に起こる人生を私たちは歩んできたわけですが、土壇場で自分をどこかで支えてくれたのは、そうした精神や価値観、力だったのかもしれない。

新入生の皆さんが生きる二十一世紀は、急激な人口減少、気候変動、国際紛争など地球規模の危機、深まる対立と分断、AI の進化など、変化の激しく予測不可能な時代であります。そのような時代にあってこそ、本校の伝統は時代を切り拓く大きな力となることでしょう。

何故なら、もはや誰も正解を知らない世界を、皆さんは生きていくからです。これまでの常識や価値観、システムに従うだけでは解決できない課題が山積する中で、皆さんに求められるのは、自由に世界を探究し、多様な人と協働する中で、まったく新しい発想ややり方で新たな価値や生き方を創造し、変革を実現していくことです。

これからの福島高校生には、本校の伝統、校風を受け継ぎ、さらに発展させることにより、将来、解決困難な課題に果敢に挑戦し、対立や分断を乗り越え、新たな価値や生き方、持続可能な社会を創造する人間となることを期待したいと思います。

そのため、皆さんに、高校生活を通して学んでほしいこと、身につけてほしいことを3つお話しします。

第一に、世界を深く探究する高い知性を身につけてください。自分が面白いと思うこと、好奇心をくすぐられることを真剣に考え抜く探究心こそが、世界を変えるような変革、イノベーションの原動力なのです。そして、探究を深めるためにも、各教科で学ぶ概念や物事の見方、考え方をしっかりと自分のものにするとともに、自学自習を通して自分の頭で考える力を身につけ、多様な学びを通して一つの考えにとらわれない批判的・複眼的思考力を鍛えていってください。本校の伝統である自学自習を、単なる自習ではなく、このような力を自ら鍛える営みだとして、授業とあわせて、より質の高い学びを実現して欲しいと思います。

第二に、人の痛みがわかり多様な他者と協働する豊かな人間性を養ってください。特に、他者の心の痛みに共感し寄り添ったり、多様な生き方を受け入れ共に生きようとする姿勢を育むことは、将来、様々な分野でリーダーとして活躍する上で欠かすことのできない重要な資質です。本校の伝統である梅苑祭をはじめとした行事や部活動、国内外の多様な人との交流を通して、価値観や考え方が異なる人と共に社会生活を営む力や、人間関係を構築する力、仲間と共に高め合うコミュニケーション力を身につけてください。

第三に、自らと社会を変える変革マインドを養ってください。時代に何かを求めるより、時代があなた自身に求めるものは何なのかを考えましょう。今のやり方や考え方、常識、社会に適應するだけではなく、新たな価値やシステムを生み出し、よりよい世界を創りましょう。そのために、必要なのは、自由闊達なしなやかさ、失敗や挫折から学び前進する力、とがった発想や創造力などの変革マインドです。本校のSSH事業を通して先進的な分野への関心を高めるとともに、大学や企業と連携した学問分野を超えた学際的な学びなど高度な学びの追究により、卓越した力や独創性を育み、自己実現と進路実現を目指してください。

これらの学びを支えるため、本校では、皆さん一人一人を最大限に尊重し、自主、自律を基本とした自由な学校、失敗を恐れず挑戦する生徒を支える学校、学問の奥深さに出会い、学ぶ喜びに満ちた学校、あちこちに対話と協働が沸き起こる学校、世界の一流と出会い、ワクワクする機会に満ちた学校、生徒も教職員も安心でき居心地の良い学校を目指していきます。

次に保護者の皆様に申し上げます。皆様にとって大切なお子様を三年間お預かりいたします。私ども教職員一同、一人ひとりの能力を伸ばし、本校入学の所期の目的達成のため、一致協力して教育に当たってまいります。しかし、教育は学校のみで出来るものではありません。特に、十五歳で始まる高校三年間は、心身ともに、少年期から青年期へ移行する年代であり、成長と発達の変化が極めて激しい時であるとともに、今後の生き方を決める大切な時期でもあります。生徒たちに大人の自覚を持たせ、心身ともに健やかな成長を図るためには、保護者の皆様と私ども教職員が、常に強い信頼の絆で結ばれ、学校、家庭が、それぞれの役割をしっかりと担い、協力し合うことが不可欠であります。何卒、家庭と学校の連携を密にさせていただきますとともに、本校の教育への御理解と御協力をお願い申し上げます。

次に御来賓の皆様申し上げます。皆様方には御多用中にもかかわらず御臨席を賜り、新入生を激励していただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、皆様方には、常日頃から本校の教育活動に対して、物心両面に亘る、多大な御支援と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。今後とも、本校教育発展のために、より一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、皆さんが、本校の「自由」の伝統と、のびやかでおおらかな校風の中で、のびのびと学び、友と語り、本に親しみ、行事や部活動に情熱を燃やし、広い世界と出会うことにより、それぞれの個性と能力を大きく伸ばし、新たな時代を創造する人間として成長していくことを祈念して、式辞といたします。

令和五年四月十日

福島県立福島高等学校長 丹野 純一